

「敗戦パレード」

中西祐介

負けたと思えた帰り道は

敗戦パレード

農道を彩る木々たちが

反省と対策のシュプレヒコール

こだまする

汚れたカーブミラーは苔むして体（てい）をなさず

うなだれて 月明かり うなだれて

笹が風と手を組んで私を車ごとしばいてくる

最初の印象 悪かった

ふつつつと 怒り

正しい正しい間違っていない間違っていない

ずっと同じ真つ暗道じゃ

曲がり角をスルーしている

考えごとをしているからさ

「負けてない」を連呼する感じが負けている

試合に負けて勝負に負けた

二十三時の敗戦パレード

負けた国の人たちが

ぞろぞろと瞳うしなつて歩く

小石と罵声と罵詈雑言

ふりかかる ふりかける

私はどっち側にいるつもりで

眺めているのだろう

どっちもごめんだ なんてぬるい発言を

誰も期待してないから 私に

小石と罵声飛んできて

空想世界の泥試合

こんなことは望んでないのに

季節や時間から離れてこそ自由がある

人とか国とか などなどなどなど

無関心が乾燥させて

ねっとり泥試合もいつか星屑の砂浜

サラサラなきらめきになる